

令和2年度学校評価

松本筑摩高等学校 定時制午前部午後部

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習し、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。 2 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。 3 わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。 4 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。			
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
安心安全な学校づくり	規範意識・安全意識・社会性を育てる	1 生活アンケートや諸調査を通して、生徒の内面の理解に努めるとともに適切な生徒指導ができたか	B	アンケート・面接の時間を有効に使い、アセスや授業評価を通して生徒理解を深め生徒指導に活かすことができた	アンケート・面接の時間を定期的に計画し、面接時間を確保することで生徒の状況変化を把握する。生徒の話に小さなことでも傾聴していく
		2 盗難や交通事故、人間関係トラブル等から身を守る行動をとれるように指導できたか	B	コロナ休業のため例年並みのSSTが実施できなかった SNSや交通事故の対策は行ったが、人間関係のトラブルは根深かいものがあつた	今年度以上の校内外の巡視をし予防に努める SSTに小人数のグループワークを取り入れ、一人ひとりを尊重する高い社会性を育成していく
		3 「自分から挨拶」「話を聴く」「話を聴いてもらえる」ことを通して、受容感や所属感が高められたか	B	生徒と職員の挨拶は自然と交わされる環境になってきている	日常的な生徒間の挨拶やマナー向上への手立てを工夫していく
	カウンセリング・マインドの獲得	4 いじめ・体罰の根絶に向けて定期的に点検ができたか	B	定期的な点検はできたが、いじめはなかったとは言いつれど、指導や面談を継続していく	小さなトラブルのうちに対応できるように、アンケート・面接の時間を定期的に計画し、職員間で情報共有を密にしていく
		5 生徒の変化や小さな気付きを職員間で共有するとともに、SCや外部機関との連携ができたか	B	SCや保護者、医療、支援機関と連携し生徒の心の安定が得られた	SCのタイムリーなコーディネートと相談室担当の増員していく
	学校生活支援	6 生徒が見通しをもって安心して生活できる学校生活を提供できたか	B	一斉メールや生徒玄関のホワイトボード等により、予定の周知に努めた	一斉メールへの登録を引き続き呼び掛けていく
		7 S S Tや課題研究の発表活動を通して、コミュニケーション力の向上に取組めたか	B	1年次のSSTは例年並みの内容と回数が必要である	キャリアと特別支援でSSTの全体構想を再考していく
自主活動の活性化と実践	生徒の自主的な活動の充実	8 活動計画を立て、生徒が生徒会活動に積極的に係ることができたか	B	コロナ禍で制限がかかる中、生徒はそれぞれができることを考え、工夫して取り組めた	自主自立に根ざした取り組みを行えるよう、さらに生徒の活躍できる機会を模索していく
		9 部・同好会への加入を勧め、それぞれの目標に向かって活動を充実させることができたか	B	休校期間もあり、活動の制限、また適切なタイミングで加入を勧めることが難しかった	例年通りの計画では活動できず、生徒が活躍できる場を工夫して確保していく
		10 文化祭で自分が参加できる企画を見つけ、その準備や運営の中で成長することができたか	A	コロナ禍により例年とは異なった企画運営ではあったが、多くの生徒の活躍する姿が見受けられた	今後オンライン等の環境づくり、また活用についてはさらに研究していく
	キャリア教育の推進	11 進路ガイダンスや体験学習により生徒のキャリア意識を高めることができたか	B	コロナ禍により前半の計画が中止になったが、後半はリモート利用や、職業意識の形成として企業の方の講話を実施できた 優先順位を付け、新規も含めて内容を工夫することはできた	コロナ対応および対策をふまえた計画立案を進めるべく、自己理解と職業理解を通して、将来への見通しが持てるような学びの充実を図っていく
		12 課題探究等を通して、計画的に物事に取り組む力を育むことができたか	B	コロナ禍により確保できた時間が少なく、十分な力の養成には及ばなかったが、自己の課題の探究に前向きに取り組む生徒も多かった	コロナ対応および対策をふまえた計画立案を進める 生徒の興味関心や進路に関わる課題設定を心掛けていく
	進学・就職指導の強化	13 進学や就職に関わる情報を適切に伝えることができたか	B	オープンキャンパス等の進学情報や、就職指導員の協力をえて企業データを提供できた	1、2年次への情報提供にも力を入れていく
		14 生徒の自己理解と保護者の願いを大切に、就労移行支援を含め適切な指導ができたか	B	外部組織との密な連携により、適切な指導が行えた 個に応じた進路実現の支援が進められた	低学年次からの働きかけをさらに充実させる さらに自己理解を深め早期から支援の連携を進めていく
伸ばす指導	わかる授業の実践	15 生徒による授業評価やユニバーサルデザインを意識した授業づくりができたか	B	授業評価は計画通りに実施でき、活用している 授業づくりについても、ICT機器が整備されたこともあり、研究が進められた	授業研究会等、学校全体での取り組みを考えていく また、ICT機器のいっそうの活用やより生徒の実態に即した授業展開、教材作成等を行っていく
		16 生徒の実態を踏まえてカリキュラムの研究や授業改善を進めることができたか	B	授業改善については、職員会の場で、授業モデルを用いて共有した また、視聴覚教材を利用するなどして、より内容を充実させることができた	コロナ感染防止対策を講じつつ、生徒自らが学ぶ姿勢を高められるような工夫をしていく
	学習指導の工夫	17 基礎学力テスト・ドリル学習等の取組を通して基礎学力の充実を図れたか	B	実情に応じて年次単位で対応できた 各年次で工夫したドリルの作成と実施ができた 生徒の意欲・学力面での個人差が効果のばらつきを生んでいる	さらに生徒の状況を分析し、内容を精査する 基礎学力テストの結果を踏まえた生徒の現状分析を実施する また、ドリルの内容の検討・精査を引き続き行っていく
		18 個別指導や補習・模試などにより上位層の学力を伸ばすことができたか	B	進路希望に沿った個別対応を行うことができた	個別指導は多岐にわたるため、職員の負担の分散を図っていく
		19 授業見学や実践報告、研修会等への参加を通して、教育効果の高い指導法を研究できたか	B	コロナ禍により、限られた機会ではあったが、効果的なICT機器の利用法や動画配信の技術等について、研修や学習会で得ることができた	オンラインも含めた学びの機会には引き続き積極的に参加をしていく 校内のICT環境をより整えることにより、授業での活用を深めていく
開かれた学校づくり	情報発信力の強化	20 HPなどを通じて、地域や社会に向けて学校情報を積極的に発信できたか	B	充実した内容となった	もっと生徒の活躍を外に向けて発信していく
		21 公開授業や学校説明会を工夫し、本校の特徴を十分に伝えられたか	B	本校での学びやどのような成長を果たせるのか工夫を図った	参加者からの意見を次年度に活かしていく
	地域連携	22 街路清掃等の実施により地域の環境美化に貢献できたか	B	生徒は校外美化活動を行い、職員は定期的に巡回し、清掃・点検を行った 一方で通学路の利用状況に課題もあつた	校外美化活動によって、生徒たちの、地域で生活していることへの意識を強めつつ、マナーやゴミ捨て等に対する指導も継続していく
		23 地域の人材や教育資源を活用することができたか	B	コロナ禍で制限がかかる中、講師の活用方法を工夫し、最大限の取り組みができた	学校の仕組・教育活動についての情報発信を充実させつつ、地域人材の活用推進を図っていく
		24 聴講生の受け入れやパソコン講座の公開により生涯学習の場を提供できたか	B	感染防止対策を講じ、探究美術とパソコン講座で学びの場を提供することができた	引き続き、開講に関する情宣の強化を図っていく